

令和5年度 自己評価表

中長期目標 (建学の精神)	≪建学の精神≫ 人格の向上、徳の涵養に努め、自主的精神に富める心身の健やかな人を育成する。(スクールポリシー) ≪目指す生徒像≫ 知識を深め、論理的分析的な思考力を持つ生徒 国際的な視点を持ち、自分の意思を相手に伝える力を持つ生徒 相手を尊重し、自ら考え判断し、課題解決に向けて努力できる生徒
------------------	---

今年度の重点目標	① 学力の向上 ② チャレンジ精神の育成 ③ 基本的生活習慣の確立 ④ 自己肯定感の醸成 ⑤ 鳥取敬愛版GIGAスクール
----------	--

年度当初					評価結果(3)月		
評価項目	評価の具体項目	現状認識	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成の状況	評価	改善方策
学力の向上	確かな学力の獲得	<ul style="list-style-type: none"> 授業規律は概ね良いが、授業に対する興味・関心、意欲が不足している生徒もいるがその割合は年々低下しつつある。 生徒の基礎学力に幅があり、基礎学力の定着が不十分な生徒も多い。 各教科で課題を出したり、放課後学習に取り組んでいるなど、特進コースでは成果が出ている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が意欲的に授業に取り組んでいる。 基礎学力の定着が見られる。 家庭学習時間が増加し、授業の予習や復習が習慣化している。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科で家庭学習が見込まれる課題などを提示するとともに、提出物点検等を徹底し、適切な評価を実施し、家庭学習の習慣化を図る。 外部模試やLiteras検定を利用して事前事後の取組を行う。 Classiで生徒のレベルに合わせた動画配信をするなど、生徒の興味関心を高める方策を取り入れていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 年2回実施した授業アンケートでは「先生の授業が分かりやすい」と答えた生徒が75%に上り、授業そのものの満足度は高いといえる。 それが基礎学力の定着、家庭学習の習慣化につながっている生徒も多数見られるが、不十分な生徒が多い。 Literas検定合格に向けての取組を実施したが大幅な上級合格者の増加には至らなかった。 特進コースでは模試成績に顕著に丁寧な指導の成果が出ている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 引きつづき生徒の理解度、満足度の高い授業の提供に努める。また、次年度も引き続き授業アンケートを実施し、先生を生徒が評価する機会を設ける。 Literas検定合格に向けての取組を見直し、合格者増を図る。
	学習支援体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ICT環境の充実にもとない、すべての職員がICTを活用した授業展開が可能となった。 職員のICTスキルにばらつきがある。 KIスタディーキャンプを行い生徒の自主的な学びの場を提供できている。・特進コースを中心に、学習に積極的に取り組む生徒も増えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の授業でICTの活用や授業改革が進み、職員全体が自己研鑽に努めている。 生徒が目的を持って主体的に学習に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業や授業公開、各種研修への参加を促し、授業改善に努める。 ICT機器の活用のため職員研修を行うとともに、情報環境の整備に取り組む。 個々の生徒のニーズに対応したプログラムを提供できるよう努める。 夏季や冬季に補講を実施し、学力の定着に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業を実施し、授業改善に努めることはできた。 クロームブックを活用した授業が一部の教科や探究の授業のみにとどまり、真価を発揮するに至っていないが、生徒の発表のツールとしては定着しつつある。 Classiの動画により、より深い学びを希望する生徒にはそのニーズにあったプログラムが提供できた。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度には、全生徒がクロームブックを持っている状態となる。各教職員の活用スキル向上は急務であり、鳥取県の教職員研修を活用するなどスキルアップに努めたい。
	ひとり一人の進路実現	<ul style="list-style-type: none"> ハローワークと連携して、職業意識の喚起に努めている。 進路ガイダンス、進路LHR等、低学年から将来を考えるよう促している。 外国籍生徒の就業支援、進学支援を早期に実施する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 体系的な進路指導が進められており、生徒が主体的に将来を考え、目標を持って進路実現に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導の年間計画を改定し、担任の進路指導の助けとなる取組を実施する 就職に関しては目標を定め、就職活動に主体的、積極的に取り組ませる 外部模試等を利用し、各教科でPDCAサイクルを確立し、生徒の個に応じた学力の伸長を図るとともに、進路実現に努める。 外国にルーツのある生徒の就職進学支援を早期に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年生は多くの生徒が自分の望む進路を実現することができた。特に就職についても求人件数の増加もあり好調であった。 外国にルーツのある生徒の進学についても、大学の協力もあり、順調に取り組めた。 1年生2年生の進路意識はコロナの影響が抜けきらず、進路実現のための基礎学力の定着に取り組み続けた。また、ガイダンスを通してひとりひとりの進路意識の向上に取り組めた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き丁寧な進路指導を続けた。 校外での進路学習の取組を再開していきたい。
チャレンジ精神の育成	国際理解教育の推進 総合的な探究の時間の活用	<ul style="list-style-type: none"> 2年生の海外研修旅行や、教職員とともに生徒が世界をめぐるジョン万次郎プロジェクトを実施する。 留学生の受け入れも積極的に行うとともに、オンライン交流を実施できる目的がたち、生徒のグローバルシティズンシップの育成が可能な状況が見えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 語学も含め、様々な手段を駆使して自分の意志や考えを海外の人々に伝えようとチャレンジする姿勢がある 	<ul style="list-style-type: none"> 英語検定の積極受検は本年度も継続して実施していきたい。 前年度のプレ実施の反省を生かし、総合的な探究の時間の改善を実施。生徒が探究活動を通じてプレゼンテーションスキルや説得力を育成できる鳥取敬愛スタイルの探究活動の構築を目指す。 国際理解教育ではシンガポール研修旅行や留学生との交流を実施し、生徒・職員が視野を広げることができる取組を実施していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語検定では、多くの生徒が取得に向け努力することができた。 生徒とともに考えながら鳥取敬愛スタイルの探究活動の基盤を作ることができた。教員間で改善点を共有し生徒の更なる成長につながる探究活動に変化させていきたい。 シンガポール、韓国研修旅行や夏季休暇中のJMPを通じて、多文化を知ることで、地元についても多面的な見方ができるようになった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 海外研修のさらなる充実を図る。(台湾やマレーシアへの直接進学、海外の高校との姉妹校提携、オンライン交流) 鳥取敬愛ふるさとキャリア教育のさらなる充実を図る。(協力企業の充実、よりよい講演スタイル、生徒のニーズにあった取組)
基本的生活習慣の育成	基本的な生活習慣とマナーの定着	<ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒が起床、学習、就寝時間を決めて生活できているが、できていない生徒への具体的な対策ができていない。 ほとんどの生徒が自分は校則やルールを守っていると思っているが、一部の生徒の社会規範を逸脱した行動が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭での生活習慣(起床、学習、就寝時間など)が確立している。 より高い規範意識を持ち、落ち着いた基本的な生活習慣が身についている。 	<ul style="list-style-type: none"> フォーサイト手帳を有効に活用するなど、生徒に将来の目標を設定させ、それに向けて自己管理に何が必要か考えさせ、生徒の変化を期待する。 各学年、授業担当者との緊密な連携を図り、日常的な指導を徹底するとともに、定期的な全体指導を充実する。 生徒保護者へのていねいな説明と適時な連携による指導を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> フォーサイト手帳の活用については、自己管理に向けて活用を促すことができたが、その情報を生徒と教員で共有しきることができなかった。 学年、授業担当者との密な連携をとり日々の生徒指導へ結びつけることができた。 担任以外の教職員による朝の挨拶運動を実施するも、遅刻する生徒の減少への効果は少なかつた。 	C	<ul style="list-style-type: none"> フォーサイト手帳の取組は終了し、生徒それぞれがデバイスやキャリアパスポートに保存することに変更する。 ひきつづき生徒保護者へのていねいな説明と適時な連携による指導を徹底する。 担任以外の教職員による朝の挨拶運動は継続して実施する。
	豊かな人間関係づくり	<ul style="list-style-type: none"> 依然としてスマホ依存度の高い生徒もあり、SNSなどを通して人間関係のトラブルのある生徒もいる。 生活アンケートやhyper-QUを活用して良好な学級集団づくりに取り組んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> スマホ・携帯電話などの利用やSNSの適切な利用マナーやが定着しており、周囲に配慮した言動ができる。 生徒にとって学校が安心・安全な場所となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> LHRの時間をクラスづくり以外に充てることをなるべく避け、担任が安心安全なクラス経営ができるようシステムづくりを行う。 全校集会、学年集会、HRなど機会あるごとに、スマートフォンの扱い方やSNSの危険性について啓発活動を継続して実施する。 生活アンケートやhyper-QU、個別面談等を通して生徒理解に努め、保護者と連携を図り、生徒の様子の変化に迅速・適切に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活アンケートや個別相談週間の実施を通じて、生徒間のトラブルを早期に見出すことに務めたが、退学や転校を選択する生徒が少なからずいたことは、大いに反省しなければならない。 SNSは日々新しいサービスが広がり、保護者や先生から生徒の様子が見えにくくなることは深刻化している。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ひきつづき生活アンケートや個別相談週間を通じて、生徒間のトラブルの早期発見に努める。 学年集会を定期的に開催し生徒と教員との意思統一を図る。 生徒が学校が楽しめるイベントづくりを心がける。
自己肯定感の醸成	学校行事・部活動などへの積極的参加	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事(敬愛祭・研修旅行・遠足等)や学級活動へは比較的積極的に参加しているが、コロナ禍により消極的姿勢が全体に見られつつある。 役割を与えられたり指示をされた場合は責任を持って取り組むが、主体的に取り組もうとする意識を育む必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事や学級活動、部活動さらにはボランティア活動などに主体的に参加し、他者と協力して自己有用感を感じることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分を成長させる大切な場である学校行事や学級活動、部活動など集団での取組を通して、生徒に自分の役割を自覚させるとともに他者とのより良い関わり方を身につけさせる。 探究の時間やボランティア、就業体験を実施し、地域の人々の考えた方や高校生に向けて目を理解体験する機会をもうけ、生徒の自己肯定感と課題発見の一助としたい。 一人一台PCを活用させることで自己表現の機会を与え、自己肯定感の醸成に寄与させる 	<ul style="list-style-type: none"> クロームブックを活用した生徒自身によるプレゼンテーション作成は大きなムーブメントとして育てることができた。多くの生徒が果敢にチャレンジしてくれており、自己肯定感の醸成に寄与していると評価できる。 生徒の自発的な挑戦をアシストすることもできており、しゃんしゃん祭りへの「鳥取敬愛連」としての参加はその例である。多くの生徒にその輪が広がるのが今後の課題である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> より多くの生徒が負担を感じず楽しめる学校行事を生徒とともに作って行きたい。 教員は生徒の自発的な挑戦を可能な限りアシストすることを旨とする。 部活動は勝利至上主義から脱却し、より充実した心と体の育成の場とする。

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:変化が見える D:まだ不十分 E:見直しが必要
 [100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]